

とびしま観光

サイクリングコースとして知られる安芸灘とびしま海道が貫く呉市の安芸灘諸島で、アウトドア観光が盛んになっている。宿泊施設の運営事業者はレンタサイクルを増やし、地元の住宅メーカーは、手軽に豪華なキャンプが楽しめるグランピング施設を建設。新型コロナウイルス禍の中、密を避けられる点からも人気が出ている。市もアウトドアスポーツの本場を目指し、情報発信に取り組む。(東谷和平)

Eバイク周遊やトレイルラン ■ 露天風呂付き豪華テント泊も

アウトドア前面に

本土から安芸灘大橋を渡った先の下蒲刈島。瀬戸内海の優しい潮風を受け、ロードバイクが駆け抜ける。サイクリングの拠点でもある宿泊施設「コテージ梶ヶ浜」責任者の高島俊思さん(48)は「毎年訪れるフランス人もいる。ここはトレピアン(素晴らしい)って喜んでくれる」と笑顔を見せる。同コテージの指定管理者でビル管理のビルックス(呉市)などは、島々の観光振興へ向けた組織「未来へのとびしま」を3年前に設立。コテージではレンタサイクルを増やし、今年2月にはスポ

ーツタイプの電動アシスト自転車「Eバイク」など3台を導入して計45台にした。

大型連休は満室

ビルックス社長で同協会の藤井聖会長(43)は、尾道市などを通る瀬戸内しまなみ海道と比べ「観光客数で差をつけられている」と指摘。「アピールを強め、アクティビティのメニュー

地域
きりり

市、ウェブで情報発信



開発も進めていく」と意気込む。

呉地域の東端となる大崎下島にはグランピング施設「グランピスバ瀬戸内」が昨夏に開業した。キャンプブームを背景に、住宅・ビル建設のドヒハウス(呉市)が手掛けた。ドーム型テントとコテージ型が6棟ずつ。天然温泉の露天風呂を備える。

「今春の大型連休は満室だった。目標を上回る集客ペース」と、土肥督志常務(48)は手応えを語る。グランピング施設の新たな候補地も探しているという。

かんきつ栽培や漁業で栄えた安芸灘諸島。大長ミカンで知られる大崎下島は、段々畑がオレンジ色に染まるさまから「黄金の島」とも呼ばれた。同島には、町並みが江戸期の風情を残す御手洗地区もある。島々の风光の美は折り紙付きで、最近の話題では、米アカデミー賞の国際長編映画賞を受



多島美の海を望むコテージ梶ヶ浜の敷地で、導入したEバイクを手にする高島さん



グランピスバ瀬戸内のドーム型テントの内部